

第68回 男鹿駅伝競走大会イベントレポート（第7回：7区）



寒風山（写真提供：男鹿なび）

【第7区】

レースはトップ学生チームに44秒差の全体2位で遂に最終区アンカー7区へ。

全7区間、全長64.7km、3時間を越えて争ってきたレースも半島を1周し、遂にゴールに至る。7区は、今年のコース変更による新設区間で、旧コースでは1区～2区にまたがる10.1kmの区間であり、前半から細かなアップダウンを繰り返し、途中2ヵ所で約2kmに亘る大きな起伏を越え、スタート地点の男鹿総合運動公園に戻るコースだ。

今年、アンカーを任されたのは、神奈川県出身で入社4年目の加藤である。

加藤は現在、経営企画室情報システム部システム課に所属し、主に社内で従業員が使用しているコミュニケーションツールに関する業務を担当している。

レースは、トップ学生チームとの差が若干開いたが、最後まで諦めずにトップを追走して展開する。

今年のレポートは、この後、走った選手の直筆感想からレースのリアルな実況をお届けする！！

ShinDengen



7区：10.1km（北浦（ニコト）～男鹿総合運動公園）

<<加藤選手レポート>>

男鹿駅伝を迎えるにあたって非常にいい練習が積めており、心身ともに充実した状態で当日を迎えることが出来た。

今回の男鹿駅伝は陸上を始めてから初のアンカーということで、走る前からトップでゴールすることだけを考えて準備していた。



加藤の前半の走り

結果的に1~6区の選手が相当な差をつけてレースを進めてくれたため、スタートまでリラックスしながら準備することが出来た。

スタートした時、40秒前に東洋大学さんがいたので、全体トップでゴールすることを意識して走り、前半は思い通りに走ることが出来たが、後半にかけて腹痛を起こしてしまい、イメージしていた走りとはかけ離れる形となってしまった。

最後に持ち直すことが出来た部分は次につながる結果になったと思う。



中盤で安定した走りを見せる加藤

レースを終え、チームとして優勝出来たことは非常に嬉しく感じるが、自身の結果としては、課題が多く残るレースとなってしまったため、次のレースでは成長した姿をお見せ出来るように取り組んでいきたい。

今後については、チームとして11月に開催される東日本実業団駅伝を目指すとともに、個人では自己ベストの更新、フルマラソンへの挑戦といったところを目標に取り組んでいく。



真山から寒風山を望む（写真提供:男鹿なび）

最後になりますが、日頃より陸上部に対するご支援・ご声援を頂き有難う御座います。

当日は、全面的にご協力を頂きました秋田新電元の皆様、また現地まで応援に駆けつけて頂きました鈴木社長、堀口工場長をはじめとする当社の皆様の声援を力に変えて走ることが出来ました。心より御礼申し上げます。

今後も更なる飛躍が出来るよう取り組んで参りますので、変わらぬご支援ご声援を宜しくお願い致します。

（終）



有終の美を飾る加藤のゴール

- ※ 加藤選手のレポートいかがだったでしょうか。
春先から積極的にレースに出場し、好調を維持していた彼の自信みなぎるレポートで、腹痛が
悔やまれますが、最後まで諦めずに優勝のゴールテープを切ってくれました。
チームに安定をもたらす走りの出来る加藤選手とチームの益々の活躍をご期待下さい！！

【7区成績】一般の部

距離 : 10.1km
順位 : 3/41位 (大学を含む全体順位 : 4/52位)
タイム : 31分35秒 (目標タイム : 31分00秒)

以 上

- ※ 次回は、イベントレポート最終回 (第8回 : スタッフ編) へ続く